



## “トラックドライバー帝王学 のすすめ”のウラ話

SAM日本チャプター理事・広島支部長  
（株）ロジタント 代表取締役

吉田 祐 起



本誌2002年Winter号の末尾に、標題タイトルの拙著単行本を同年内に出版すると書きました。1年半遅れの実現です。業界新聞への定期的な執筆要請が舞い込んだのがその理由でした。本書のサブタイトルは「ザ・プロフェッショナルズへの教科書」です。文芸社（東京・新宿）刊で全7章、364頁で、e-book（電子書籍）も一緒です。

当初、私は本書が特定業界の専門職を対象にしたものであることから、その販売には著者独自のルートを買くつもりでした。ところが、出版社の審査部が本書を「ヒット販売商品」にランクし、同社契約の全国有名書店300店の新刊書棚に並べてくれました。ドライバー以外の人たちにも関心を抱かず魅力がある、というのです。失業中の若者たちが本書を読んだら、ひょっとして、この職業に魅力を感じ、新規参入する動機やヒントを得るかもしれない、とも評してくれたのです。

最終の第7章は「サラリーマン帝王学のすすめ」です。一昨年本誌に寄稿した同タイトルの拙著前・後編をチャックリと掲載しています。成果主義賃金制度が軒並み導入される昨今、サラリーマンは自己の仕事には個人事業者の心掛けで取り組まなくてはいけない時代であることから思いついた提言キーワードです。本書購読の対象人物であるトラックドライバーの場合、高額財産の資産管理者・損益責任者であり、かつその操作次第では凶器にまじり立つ立場にあるだけに、人一倍個人事業者的考えと自己責任意識で取り組まなくてはなりません。「サラリーマン帝王学のすすめ」の原点をここに見出したのでした。

本書の末尾に11頁、128件に及ぶ拙著エッセイや論文のタイトル一覧表も記載しました。単行本にしたら、かれこれ10冊にもなるボリュームの執筆実績です。SAM NEWS誌への拙著寄稿文14件はその一部です。これら大量の著作や業界紙（誌）取材関連記事等をウェブサイトに掲載している

のですが、現在のディスク容量50MBがまたまた満杯になりそうです。

最終校正の段階で、表紙デザインと宣伝用チラシをひと目見た広島大学哲学科卒の若手営業マンが呟いたひと言を「終章」に加筆しました。「…私は失礼かもしれませんが、「トラックドライバー」に対しては、ダークな（汚い・下品な・卑劣な・むかつく）イメージしか持っていませんでした。でも、これを見た途端、そうした考え方が間違っていた」と認識しました…と。

従業員の生活を守るべき立場にある経営者は教育者の自覚が必要だと常々考えています。本書を世に出すに至って痛感することがあります。天下の公道を職場とするこの業界にとって、交通事故防止努力は企業の生命線です。安全運転の基本を「人間性」の向上に位置づけていることから、運送会社経営者こそが「教育者」としての資質を備えることがより強く求められていると思います。しかし、人間教育には「年の功」が無視できません。二代目社長ともなれば、先代時代から在職している年長のベテラン社員もいます。社員の人間性や人格に問題があっても、社長といえどもその改善を求めるには年齢差の壁が否定できません。クライアントの社長から迷惑されることですが、私のドライバー研修における発言を評して、「センセイ、社長の私ではそこまで言い切れません。私の代弁をしていただくことで助かります…」と。そんなことから、満72歳の年の功にも免じて、本書を「経営者代弁の書」足り得ると自負します。

全国に5万8千社、80数万人の社員ドライバーを擁するわが国トラック運送業界ですが、トラックドライバーには物流の担い手としての誇り高い職業観とガッツ感を与え、企業労使の社会的地位向上への一助を果たす書籍となれば本望です。